

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5年 4月 14日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	0名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3890600392
事業所名	グループホームくれない
(ユニット名)	お幸
記入者(管理者)	
氏名	網野有依子
自己評価作成日	令和 5年 3月 28日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 笑顔の絶えない楽しい日々を送っていただく</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①利用者様の現在の状況を担当者から聞き出し職員会で情報共有し、計画の見直しが必要か話し合うよう取り組んだ。職員間で共通認識が出来るようになり、ケアの確認が行えている。 ②毎月のくれない便りに運営上の事柄や職員の入退職についてのお知らせを掲載するよう取り組んだ。くれない便りに掲載するようになり、ご家族からコメントをいただくなど以前よりは分かりやすくなったと認識している。 ③本人からの聞き取りや要望を聞くがコロナ禍の為外出支援にはつなげていない。感染状況を鑑みて可能な外出支援を行ってきたい。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 令和3年4月に、現在の法人に経営移管した事業所は、市内中心部から少し離れた住宅街に立地している。リビングや廊下の窓から、石鎚山の絶景や田畑が眺められ、季節を感じる事ができる。コロナ禍において、外出や面会の制限が設けられていたが、日頃から事業所周辺を散歩したり、裏にある畑に出て旬の野菜を収穫したり、玄関スペースで家族との面会に対応するなど、利用者が気分転換を図りながら、楽しみのある生活が送れるような支援に努めている。また、職員同士の良好な関係が築かれ、お互いに意見が言いやすいほか、有給休暇を取得しやすく、働きやすい環境にあると感じており、離職する職員はほとんどいない。管理者は、「事業所の素晴らしいところは、職員が良いこと、利用者をぞんざいに扱わず、常に寄り添って支援している。今後は、運営推進会議や避難訓練の開催方法のほか、家族や近隣住民との交流行事を実施するなど、職員間で話し合いをしながら、改善していきたい」と活き活きと話されていた。訪問調査日には、ユニットの入り口に設置されたボードに、事業所の理念である「笑顔の絶えない楽しい日々を送っていただく...マスクの下は笑顔です」と掲げられており、その具体的な取り組みを記載し、実現できよう職員一同が取り組んでいる。</p>
---	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	個々の思いや意向を把握するよう努めている	◎	/	○	日々の支援や会話の中から、職員は利用者の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。把握が困難な利用者には、表情やしぐさなどから思いをくみ取るよう努めている。また、面会時や電話連絡時を活用して、家族から情報を聞くほか、意向などを確認している。さらに、把握した情報は、申し送り時や職員会を活用して職員間の共有に努めているが、記録に残すまでには至っていない。今後は、センター方式の「私の姿と気持ちシート」などを活用して、利用者の暮らし方への思いなどを整理しながら、共有化しやすくするための記録が残せるように、職員間で検討することを期待したい。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	情報の共有を行い本人の目線で検討している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時や連絡の際に話すようにしている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	職員間での共有はしているが記録はしていない	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	都度話し合いを行いながら本人の思いを見落とさないよう努めている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居時や面会時に情報を聞くよう努めている。普段の会話からも情報収集を行っている	/	/	◎	入居時に、フェイスシート等を活用して、職員は利用者や家族から、生活歴などの聞き取りをしている。以前利用していた介護サービス事業所等の関係者や介護支援専門員から、サービスの利用経緯や状況などの情報を聞くほか、病院の担当者からサマリーの提供を受けることもある。また、日々の会話の中から、職員は利用者から新たな情報を聞くこともあり、申し送りシートを活用して、職員間で共有をしている。さらに、介護計画の見直しに合わせて、フェイスシート等の情報も更新をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日々の様子を職員間で共有し申し送りシートを活用して状態に変化があれば都度話し合っている	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々の生活での様子を記録し職員間で共有している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	毎月の職員会で話し合いを行っている	/	/	◎	事前に、職員は利用者や家族から意見を聞くほか、受診時に主治医から指示やアドバイスをもらっている。また、利用者毎の担当職員を決めているが、管理者は職員全員から利用者一人ひとりの情報を聞くようにしている。さらに、把握した情報をもとに、職員会の中で話し合い、利用者の現状を確認しながら、より良いサービスが提供できるように利用者の視点に立って検討をしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	職員間で把握し、ご家族にも相談を行っている	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	意向をふまえて介護計画を作成している	/	/	/	事前に、職員は利用者や家族、主治医から聞いた意見や指示のほか、アセスメント情報をもとに、職員会を活用して職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、家族から出された「筋力が落ちると歩けなくなるので運動はしてほしい、転倒を防止してほしい」などの意見を反映して、歩行器を使用した歩行訓練などのサービス内容を立案し、実践に繋げている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	都度話し合いを行いながら状態変化に対応している。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	個々の思いを大切に状況に応じて変更している	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ禍で会議は行っていないがご家族との意見交換は行うよう努めている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	職員会や都度話し合い共有している				利用者一人ひとりの個別ファイルをユニット内に置き、職員はいつでも介護計画の内容を確認できるようになっている。また、利用者別実施状況一覧表を活用して、介護計画に沿ってサービス内容が実践できたかを○×の印を付けて記録を残しているが、日付により記録の未記載が見られた。計画に沿ったサービス内容が実施できなかった場合には、×印を付けた上で、備考欄等のスペースに実施できなかった理由のほか、普段と違う表情や状況を記載するなど、記録様式や記録の統一が図られるように、職員間で検討することを期待したい。管理者は、「現在の実施状況一覧表は記載しにくい部分や、状況が分かりにくい部分がある」と考えており、記録様式の変更を検討している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	職員の聞き取りは行っているが記録は出来ていない				△
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	短期目標の期間に応じて見直しを行っている				○
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月の職員会で個々の現状を確認している				◎
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態変化があれば家族と連携し見直ししている				○
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ユニット間で話し合い相談している。緊急時にはその都度行っている。				○
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	それぞれが意見を出し合うような流れで活発な意見交換が出来るやすい雰囲気になっている。				◎
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	日程調整を行い不参加だった職員には申し送りを行っている				○
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノート、日誌、生活記録を活用し職員全体に共有出来るようにしている		○	○	職員間で情報伝達すべき内容は、朝夕の申し送り時を活用して、口頭で伝達をしている。また、日誌や申し送りノートに記録を残し、職員は出勤時に確認してサインをするなど、確実な情報伝達に繋げている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	日々の会話からしたいことを汲み取り、職員間でも意見交換を行っている				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	選択が可能な方には衣服やパジャマなど選んでもらっている				◎
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	様子を見ながら個々のペースを守るよう気をつけている				◎
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	興味のあることや、時には冗談を言い合うなど声かけし楽しい雰囲気作りを行っている				◎
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	細かく様子観察を行い職員間で話し合いながらその方らしい生活が送れるよう支援している				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であかさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	自尊心を傷つけないよう配慮し、職員会でも話し合いを行いながら意識するよう心がけている	◎	-		○
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	トイレや入浴時には戸を締め、女性職員希望の方には女性職員が対応している				◎
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室時にはノック、声掛けをするようにしている				◎
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	研修を行っており職員間で周知出来ている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	洗濯物畳みや食器拭き、掃除など出来ることは協力してもらいお互い感謝の言葉を掛け合っている	/	/	/	職員は、利用者の性格や関係性を把握し、見守りのほか、配席に考慮するなどの対応をしている。時には、言い合いなどのトラブルが発生する場合も見られ、早期に職員が間に入って、別の場所に移動してもらい、お互いの話を聞いたり、屋外に出て散歩をするなど、気分転換が図れるよう支援しながら、関係性の悪化防止に努めている。また、利用者が他の利用者のコップを取ってあげたり、車いすを押したり、「しんどそうだけど大丈夫」と体調を気遣う声かけをするなど、利用者同士の助け合いや支え合う場面も見られる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士が声を掛け合うことが出来る環境づくりを心がけており、理解している	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	席の移動や拳動などに注意して見守りを行い、輪の中に全員が入ることが出来るよう配慮している	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブル時には職員が早期に仲介しており関係性が悪化しないよう対応している	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人や家族から情報収集している	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ渦で外出は出来ていないが短時間の面会に来て顔を見て話すことはある	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ渦で外出は出来ていないが天気の良い日には畑と一緒に草抜きに行ったり外気に触れるようにしているが、本人が拒否されることも多い。	○	-	○	日頃から、利用者は事業所の裏にある畑に出て、花の観賞をしたり、草引きをしたり、野菜を収穫するなど、楽しみながら気分転換を図ることができている。車いすの利用者も、畑へ行きやすいように通路が整備され、一緒に野菜の収穫などを楽しむことができている。また、事業所周辺を散歩したり、玄関前の幅広いなだらかなスロープを利用して、外気浴を兼ねて、シャボン玉や水風船のレクリエーションをするなどの支援もしている。今年の春には、利用者全員で桜の花見に出かけることができ、利用者の喜ぶ姿を見ることができた。今後管理者は、「買い物などの外出行事を増やしたい、玉ねぎやじゃがいもの収穫などを利用者と一緒にやりたい」と考えている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナ渦により外出や面会は出来ない	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	職員会や都度話し合いを行い職員間で検討ケアに活かすよう努めている	/	/	/	日々の支援の中で、職員は利用者一人ひとりのできることやできそうなことを把握に努め、申し送りノートやフェイスシートを活用して、職員間で情報を共有している。入浴時には、湯を入れた洗面器を手渡して、利用者自身に洗身などのできることをしてもらい、職員は手の届かない部位の洗身やできないことサポートをしている。また、口腔体操やラジオ体操、廊下の歩行訓練、散歩などを取り入れ、利用者一人ひとりに合わせた心身機能の維持が図れるよう努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	口腔体操やラジオ体操、廊下の歩行などに取り組んでいる	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来ることはしてもらい、難しい場面では介助を行っている	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	職員間でも話し合い共有し本人が楽しめる環境づくりを行っている	/	/	/	洗濯物たたみや廊下のモップかけ、調理の下ごしらえ、テーブル拭き、お盆拭き、畑の手入れなど、職員は利用者の得意なことやできることを見つけて、役割や出番を担ってもらうよう支援している。また、職員は編み物やパズル、カラオケなど、一人ひとりの好きなことを把握しながら、利用者が楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	お手伝いや得意なことなど個々の喜びや役割を持てるよう支援しているがホーム外では行っていない	○	-	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人や家族から情報収集して選択してもらっている				外出時に、自分でおしゃれな衣服を選び、鏡の前で、化粧をするなどの身だしなみを整える利用者もいる。職員に髪を編み込んでもらったり、電気シェイパーを手渡すと自分で髭を剃ったりする利用者があるなど、職員は利用者一人ひとりの個性や希望などに応じた支援をしている。また、食事の際に、衣服が汚れないように、自ら自分のエプロンを自室に取りに行き、着用する利用者もいる。さらに、衣服の汚れや汚れなどが見られた場合には、職員がさりげなくフォローをしたり、居室へ移動して着替えてもらうなどの対応をしている。加えて、重度な状態の利用者にも、家族に好みの服を持って来てもらったり、自分の好きな髪型を伝えて、訪問理美容に散髪してもらったりするなど、本人らしさが保てるよう支援している。	
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	本人の意向や希望に沿うよう対応している					
		c	自己決定がにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	さりげない声かけを行い自己決定出来るよう促している					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	本人の意向や希望に沿うよう対応している					
		e	整容の汚れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	プライドが傷つかないようさりげなく支援を行っている	○	-	◎		
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人が希望する場合にはご家族の協力を得て行っている					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしく過ごせるよう服装を選んでいただいている			○		
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	出来る限り口から美味し摂取してもらえよう考えている				事業所では、配食サービスを利用しており、業者から調理された食材が配達され、ユニット内で炊飯と汁物を作るとともに、利用者一人ひとりの状態にあった量や食の形態にして、盛り付けて利用者に提供をしている。週1回、数種類のメニューの中から選択できる日が設けられ、利用者と相談しながら決めたらし寿司や麺類などを楽しみに食べている。また、月2回程度、利用者のリクエストメニューを取り入れており、直近で、利用者と一緒に好み焼き作りをした際には、具材選びやキャベツ切り、具材混ぜなどを手伝ってもらいながら、美味しいいただいている。入居時に、アレルギーの有無や苦手な食材などを把握し、苦手な食材などがある場合には、事前に業者に伝えて代替品の用意してもらうこともできるが、現在は対象の利用者がいない。さらに、事業所の畑で収穫した旬の玉ねぎやじゃがいも、さつまいも、ピワなどの食材をおやつや調理をして提供するほか、昔懐かしいはったい粉のお菓子なども取り入れ、食事などが楽しみになるよう工夫をしている。食器類は、自宅から使い慣れた物を持参してもらっていたが、湯飲み以外は事業所の使いやすい食器を使用している。食事の際に、感染症の予防のため、職員は利用者と一緒に食事を摂っていないが、必要に応じて、見守りやサポートをするとともに、談笑をしながら、食事が楽しくなるような支援に努めている。重度の利用者も一緒に、日中にはリビングで過ごしており、オープンキッチンから調理の匂いや音が聞こえるほか、職員は食事前にメニューを伝えるなど、食事が待ち遠しくなるような雰囲気づくりをしている。加えて、業者の栄養士が立てた配食サービスの献立は、エネルギーや蛋白質などの栄養バランスが取れているほか、管理者等は、気になることを業者に伝えることもできる。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	後片付けのみ一緒にやっている					△
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	作業後には必ず感謝を伝え自信をもていただけるよう支援している					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	本人の様子や家族からの聞き取りによって把握している					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのものを取り入れている。	△	配食サービスを使用しており献立作りは行っていないが利用者からのリクエストや季節によってホーム内で作って食べるイベントを行っている					○
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいそう盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	本人に合った食事形態に対応しており、美味しく見えるよう器を変えるなどの工夫をしている					
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	愛用のものや使いやすい食器を使用している					○
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	感染症予防のため一緒に食事は行っていないが会話をしながらサポートを行っている					△
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話を通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	リビング内にキッチンがあり調理の匂いや音を感じることが出来るよう配慮している		◎			○
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	本人の状態や体調により食事形態を変更するなどの工夫をして調節している					
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	個々にあった形態で提供し、拒否がある方にはゼリーを手作りするなど工夫を行っている					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	配食サービスを使用しており、手作り食の場合には職員間で話し合っている					○
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	手洗い消毒など気をつけている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	毎食後に歯磨きの声掛け、見守り介助を行っている	/	/	/	事業所では、年1回訪問による歯科健診を行い、利用者の口腔内の健康状況を確認してもらうことができています。毎食後に、職員は利用者の口腔内の様子を確認し、異常が見られた場合には、早期の治療に繋げている。また、職員は利用者へ声をかけて、食後にリビングにある洗面台に移動してもらい、歯磨きなどの口腔ケアを実施するとともに、見守りや磨き残しなどのサポートをしている。さらに、義歯のある利用者には、夕食後に預かり、洗浄剤に浸けるなどの清潔保持にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	異常があれば情報共有を行い、ご家族とも相談したうえで必要に応じて歯科受診、訪問歯科を利用している	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診や検診時に義歯の洗浄方法や口腔ケアの方法について教えていただいている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	それぞれの状態に応じて支援できている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後の歯磨きの声掛け・見守りを行い出来るだけ自分で行えるよう支援しており口腔ケア時に異常がないかチェックをしている	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレでの排泄を基本としており、紙おむつや紙パンツへ移行する際にはご家族とも話し合い、自信を喪失しないよう支援している	/	/	/	事業所では、トイレで排泄することを基本に支援しており、立位が難しい利用者にも、日中に職員が2人体制で、安心安全なトイレ誘導や排泄介助をしている。また、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的な状態に合わせて、職員は声かけやトイレ誘導を行い、可能な限り、布パンツを使用して生活が送れるような支援に努めている。さらに、利用者の状態に合わせて、パッドや紙パンツ、紙おむつの適切な排泄用品の使用を職員間で話し合うとともに、利用者や家族と相談しながら、適切な用品を選択して使用できるよう支援している。加えて、利用者の状態に応じて、体操や腹部マッサージ、水分摂取を促し、便秘予防にも努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解しており、便秘予防に努めている	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	記録を通して把握し、共有している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	可能な限りはトイレで排泄をするという事を基本的支援と考えている。身体や認知症の状態により、随時検討している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	職員間で情報を共有し、その都度話し合いを行っている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々の表情や行動を観察し、適宜対応している	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どのような時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	排泄する場所や時間帯など、介護記録も参考に考え、スムーズに排泄ができるよう都度対応している	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	日中、夜間に合ったものを使い分けている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	体操やマッサージを行ったり、水分摂取を促している	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	本人の体調に応じて時間帯や曜日を決定している。湯温は都度ご本人に聞くようにしている。	◎	/	○	週2回、午前中の時間帯を基本として、利用者は入浴することができる。利用者の希望に応じて、午後の時間帯のほか、遅い夕方の時間帯の入浴にも対応することもある。また、湯の温度や湯船に浸かる時間など、利用者の健康状態に応じて、柔軟に対応している。入浴の順番は、利用者同士の関係性を考慮して、利用者が少しでも入浴を楽しめるよう支援している。さらに、入浴を拒む利用者には、無理強いすることなく、声をかける職員を交代したり、言葉のかけ方を工夫したりするなど、入浴の成功例を職員で共有して試しながら、気持ち良く入浴してもらうこともできている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	本人のペースやこだわりを配慮し入浴していただくよう努めている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	残存能力を生かし出来ることはしてもらい、転倒や体調の変化に注意しながら入浴できている	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴したいという気持ちになれるよう声掛けを行っている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルの確認を行い、入浴前後に異常がないか注意している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間の排泄パターンの把握により、おおよその睡眠パターンを把握している	/	/	/	申し送り時などを活用して、夜眠れない利用者の情報共有や原因を探るとともに、日中の過ごし方や支援内容を工夫したり、外気浴を取り入れたりと、職員は利用者が夜間に安眠できるよう支援している。また、不眠が続く場合には、利用者の体調面を考えて医師に相談し、服薬に繋がることもある。さらに、夜眠れずに、ふらつきや転倒の恐れがある場合は、センサーを設置したり、床にマットレスを敷き詰めたりするなど、起床時の転倒による事故防止にも努めている。中には、日中の活動などを見直すことにより、服薬を止めることのできた利用者もいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の過ごし方について、朝夕の申し送りで共有し、原因を考え過ごし方を話し合っている	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容を十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	医師に相談を行いながら、日中の過ごし方を話し合い、共有している	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	気兼ねなく静養できるよう声掛け、見守りを行っている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	○	本人の要望があれば電話をかけている	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	携帯電話で話されたり、職員が代筆するなどの支援を行っている	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば対応を行っている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙はご本人にお渡しし、いつでも読むことができるよう居室に保管している	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族から手紙や電話があることもあり、協力を得られている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	ほぼ全員の方が自己管理は難しい為、ご家族より預かっている	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナウイルスの影響により行っていない	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	自己管理は難しい為、ご家族と相談し、ご本人の使いたいとの希望があれば対応できるよう努めている	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	自己管理をされている方がいない為、その都度ご家族に許可をとるようにしている	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	△	管理方法についてはご家族に説明し、定期的に預り金台帳をご家族に送付し確認していただいている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	定期受診の際の付き添いや、ご本人の希望の買い物等可能な限りご本人の希望に添えるよう努めている	◎	/	◎	事業所として、病院の受診時の送迎や付き添いのほか、専門医の受診時に、職員が同行して、利用者の様子を伝えるなどの対応をしている。また、利用者の要望に応じて、こだわりの化粧品や歯磨き粉、お菓子などの買い物を代行するなど、柔軟な支援に取り組んでいる。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	コロナウイルスの影響により、出入りを制限している	◎	-	○	事業所の前には、駐車場のほか、庭木が植えられた花壇が設置されている。敷地内に入ると幅広いならかなスロープの設置があり、車いすの利用者も出入りがしやすくなっている。また、玄関前には白いすが置かれ、家族等との会話の場に活用されている。さらに、玄関ホールには人形などの置物や花が飾られて、親しみやすい雰囲気を感じられる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	共有スペースに季節にあった飾りつけを行っている	◎	-	○	リビングには広いテーブルが設置されているほか、畳スペースも設けられ、日中に思い思いの場所で、昼寝をする利用者もいる。また、広いリビングの窓から入る日差しは明るく、風通しが良いほか、毎朝職員と利用者が一緒に清掃していることもあり、快適な空間となっている。中には、廊下をモップで拭いてくれる利用者もいる。物がたくさん置いてあると不穩になる利用者があるため、共用空間の整理整頓を心がけている。さらに、リビングの壁に紙で作った桜やチューリップを利用者と一緒飾り付けをしたり、畑で花を觀賞したり、旬の野菜や果物を収穫するなど、季節を感じながら、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日の換気、掃除を行っており、リビングに空気清浄機を設置している	/	/	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	食堂の窓があり、毎日の天候を話し合ったり、季節感を感じられるように、季節に合わせた飾りつけを利用者様と一緒に作って飾り付けている	/	/	◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う方と過ごせるよう椅子を配置したり、居室で自由に静養できるよう配慮している	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅で使用していた物や、ご家族の写真を飾りしている	◎	/	◎	居室には、介護用ベッドやチェスト、エアコンなどが設置されている。職員は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具を配置するほか、仏壇や家族の写真、ぬいぐるみ、カレンダーなどを飾り、居心地良く過ごせるよう支援している。中には、フロアモップ等を置き、自分で居室を掃除している利用者もいる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室の扉付近に名前を書いた額を貼り、自室がわかるようにしている。トイレには張り紙をし、場所がわかるよう配慮に努めている	/	/	○	居室の入り口には、縦書きで氏名を表記するほか、利用者の写真や好きな色紙のバラを飾り、認識しやすいようにしている。また、トイレには、分かりやすく大きくトイレと書いた紙のほか、数種類のトイレのマークを掲示するなど、利用者が迷わずに、自立した生活が送れるよう配慮している。さらに、利用者が手の届くところに新聞や本、雑誌が置かれ、毎日新聞を読んでいる利用者もいる。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	掃除道具等は倉庫に収納しているため、いつでも手に取れるようには出来ていない。新聞、本はリビングのテーブルの上に置いてあり、誰でも読めるようになっている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	理解している	◎	-	○	身体拘束の防止などを内部研修で学び、職員は鍵をかけることの弊害を理解している。職員は、「グループホームは家、家は鍵をかけて閉じ込めることはしない。鍵をかけることで心理的に不安になるので日中に玄関の施錠はしない」という共通認識を持ち、利用者の自由な暮らしを支援している。また、日頃から、利用者は事業所周辺の散歩をしたり、天気の良い日は畑に出て草引きや野菜の収穫をしたりするなど、頻繁に屋外へ出て、閉塞感なく過ごすことができています。さらに、外出願望のある利用者には、職員が話しを聞いたり、一緒に外を歩いたりして対応している。夜間は防犯のために、玄関の施錠をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居者の状態にもよるが、日中は可能な限り鍵をかけないよう心掛けている	/	/	/	
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個別ファイルにて管理している	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	申し送りノートや介護記録にて周知している	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になることがあれば、主治医に電話や往診対応をお願いしている	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	入居時に希望される医療機関を確認し対応をしている。入居後にも状態に応じて、家族や本人の意向を確認し対応をしている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人及び家族の意向に沿って適切な医療が得られるよう医療との連携を取り支援している	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診の結果報告はご家族に伝えて情報を共有している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	その都度、情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中は、病院の相談員と細かく連絡を取り情報交換を行っている。退院に向けての支援も、家族の意向を踏まえ連携して行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日々の受診の際に同行し、主治医に相談する等関係づくりに努めている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	その都度、報告や相談を行っており病状安定を図っている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	連絡可能な体制作りができています				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	個人ファイルを作成し服薬管理を行っている。記録で情報収集し情報提供を行っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬管理表を使用し、準備、服薬前後に確認している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	バイタルの確認や様子観察をしている。変化があれば医師や看護士に相談している				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態が悪化した時には家族や医師、看護士と連携しながら対応を検討している				事業所には、「重度化した場合における(看取り)指針」があり、入居時に、家族等に説明を行っている、同意を得ている。また、利用者の体調が悪くなった場合には、再度家族の意向を確認するとともに、医師や看護師、職員を交えて話し合い、方針を共有している。事業所の経営移管後に、2名の看取り介護を経験している。職員の聞き取りの際に、「夜間の急変時には、管理者の協力や24時間体制での訪問看護との連携が取れていることや、事前に看取りの流れやそれに伴う必要な介護などの内部研修を実施し、落ち着いて対応することができ、今後も事業所での看取りを希望する利用者には対応したい」と話されていた。加えて、看取り介護の最後まで、管理者は口腔内の清潔保持に努めるとともに、利用者の好きな果汁をガーゼに浸して口腔内を潤すなど、利用者に寄り添った支援を大切に考えている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	状態に変化があれば家族、関係者と話し合い、方針を共有している	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員とこまめに話し合い支援の方法を共有している				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	できること、できないことをその都度説明を行っている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	主治医や訪問看護と連携しながらチームとして支援していく体制を備えている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の意向の確認を行いながら寄り添えるよう支援している				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的に研修を行っている				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルがあり、職員が手に取れるようにしている				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	テレビやインターネットで最新情報を入手し対応している				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	情報収集を行い、マスク着用、消毒、手洗いの徹底と面会の制限を行っている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時や日々の連絡で現状を伝え本人の為に協力してもらっている	/	/	/	コロナ禍において、経営移管が行われたために、面会制限もあり、今までに家族が参加できる行事の開催はできていない。コロナ禍の落ち着きもあり、法人・事業所として、面会制限が緩和され、現在は玄関ホールで利用者と家族の面会ができるようになっている。また、今年7月には、事業所として夏祭りを開催を予定しており、家族や運営推進会議メンバーなどの参加協力の呼びかけも検討している。さらに、毎月、利用者の写真のほか、職員の入退職や異動、居室のベッドを全て介護用ベッドへ交換したことなどの運営上の事柄を事業所便りに掲載して家族に送付するほか、LINEを活用して写真を送付するなど、利用者の近況等を伝え、加えて、家族の来訪時に管理者は、利用者の気がかりなことや近況を伝えるほか、気軽に相談ができるように、玄関前のいすに座り、ゆっくりと話しを聞くように心がけている。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	コロナウイルスの影響の為行えていない	○	/	△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らし方や日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	来訪時にはゆっくりご本人と過ごしていただけるような雰囲気づくりを心掛けているが、現状はコロナウイルスの影響の為面会を行っていない	◎	/	○		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	毎月のお便りでは、ご家族に写真を送付している また、面会の際にご家族に録画を見ていただくこともある	/	/	/		/
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	×	面会時や電話にて対応している	/	×	○		
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所時にリスクについての説明をし、理解していただいている	/	/	/		/
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	来訪時にはご家族と話す機会を多く持つようにしている	/	/	○		
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時にはご家族、本人に説明を行っている	/	/	/		
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	△	退居される際はご家族の希望に沿う形での退居となっている	/	/	/		
<b>III. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を促している。	○	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、事業所の説明や問題点、認知症への理解を深めていく予定である	/	/	-	コロナ禍において、外出や面会の制限が設けられ、近隣住民との交流できる機会は少ないものの、事業所周辺の散歩時に、挨拶や会話を交わすこともある。また、昨年の秋祭りの際に、事業所にだんじりの来訪があり、利用者の喜ぶ顔を見ることができた。さらに、地域の理容室から訪問理容に来てもらうなど、地域の社会資源を活用している。今後は感染状況を見計らいながら、予定をしている夏祭り開催時に、近隣住民へ参加を呼びかけて交流を図ったり、地域行事に利用者と一緒に参加したりするなど、少しずつ地域との関わりが広がられるように取り組みが行われることを期待したい。加えて、地域住民にアンケートを持参して、協力を呼びかけたものの、コロナ禍でアンケートに応えることができない旨を言われ、アンケートの提出には至っていない。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	日常的な挨拶や散歩の際の挨拶は行っているが、コロナウイルスの影響の為地域行事には参加できていない	/	/	-		△
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	コロナウイルスの影響の為交流できていない	/	/	/		/
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナウイルスの影響の為交流できていない	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	コロナウイルスの影響の為交流できていない	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナウイルスの影響の為行えていない	/	/	/		/
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	訪問理美容を使用したり、隣接する他事業所との協力体制はできているが、外部に関して、あまり積極的な働きかけはできていない	/	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	コロナウイルスの影響の為文書開催となっている	△	/	△	運営推進会議は、利用者や家族、地域に住む元職員、法人内の他の事業所の管理者などの参加を得て開催をしている。コロナ禍において、事前に会議の参加メンバーや家族から、電話などで意見を出してもらい、職員間で話し合い、管理者が作成した資料配布の書面開催となっている。また、会議のメンバーや全ての家族に、外部評価の自己評価やサービスの評価結果などを報告している。管理者は、夏祭りや避難訓練などの行事に合わせて、運営推進会議を開催することを計画し、少しでも多くの家族や近隣住民の参加協力を検討しているほか、運営推進会議等開催報告書の様式の変更を考えている。今後は、自治会長や民生委員などに会議の参加協力を呼びかけたり、会議録を玄関スペースなどに置き、来訪者等がいつでも閲覧できるようにしたりするなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	△	結果報告は行っているが議事録の公表はしていない	/	-	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	コロナウイルスの影響の為文書開催となっている	/	-	/	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員の話し合いの中で事業所理念をつくり、日々の実践が理念に基づいたものになるよう取り組んでいる。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	より理解を深めるために働きかけが必要である。地域の人たちには伝えられていない	○	-	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員のケアの実勢と力量及び本人の希望等を踏まえ、計画的に法人内外の研修参加を行っている	/	/	/	月1回程度、事業所に代表者の来訪があり、職員や利用者へ声をかけてくれるほか、畑の草引きやぶどうの木の手入れなどの対応をしてくれることもある。また、内部研修を実施するほか、法人内外の外部研修を取り入れながら、職員のスキルアップに努めている。年1回、全ての職員を対象に、ストレスチェックを実施している。さらに、職員同士の関係性も良好で、意見も言いやすいほか、有給休暇の取得をしやすくするなど、職員は楽しく働きやすい職場環境と感じていることもあり、経営移管後にも、ほとんど離職する職員はいない。管理者は、全ての職員が有給休暇を取得できることを大切に考え、急な休暇希望にも快く対応するとともに、職員の出勤日には、元気に楽しく働けるような環境づくりにも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	管理者は、実務での気付きや必要な知識についてその場でアドバイスを行っている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	法人の処遇改善計画に基づき職場環境・雇用条件の整備に努めている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	コロナウイルスの影響もあり、参加出来ていない	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員に声掛けを行い、困っていることはないか尋ねており、ストレスチェックを行っている	○	-	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	法人の内部学習会で定期的に学ぶ機会をもうけ、具体的な内容の理解に努めている	/	/	○	定期的に、身体拘束や虐待の防止などの内部研修を実施し、職員の理解促進に努めている。日頃から、管理者は職員と一緒に日々のケアを振り返り、対応方法などの話し合いをしている。また、不適切なケアを発見した場合には、職員同士でその場で注意し合うとともに、管理者に報告して、内容に応じて職員会で情報共有を行い、注意喚起や再発防止に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々のケアについて職員ごとに確認を行っている	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	不適切なケア及び発見時の対処、通報義務について周知しており、日常的な話し合いを行っている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	個々の理解に差があり、意識の統一が必要である	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	職員会や日々の申し送りで話し合いを行っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	家族からの要望があれば説明を行い理解していただいている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	学ぶ機会はもっているが、職員の理解にはバラつきがある				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	対象となる方がいれば行う				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成しており周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	緊急時の対応について日頃より話し合っている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	事故報告書を職員会で共有確認し、話し合う機会を設けている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	職員会では個々の現状を確認してリスクや事故防止の為の話し合いを行っている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルがあるが理解にはバラつきがある				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	苦情の例がない				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情の例がない				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	利用者には、普段の日常会話から意見や要望を聞き取るように取り組んでいるが家族に対しては個々に話を聞くことのみ行っている	◎		○	日々の会話の中で、職員は利用者から「お好み焼きが食べたい」などの希望や意見が出され、利用者と一緒に作って食べるなど、可能な範囲で対応をしている。面会時や電話連絡時を活用して、家族から意見や要望を聞くよう努めており、意見を伝えてくれることも多い。玄関には提案箱も設置されているが、コロナ禍で家族等の来訪する機会が少なかったこともあり、ほとんど意見は投函されない状況となっている。さらに、管理者は、職員とのコミュニケーションを図ることを心がけ、相談しやすい環境づくりに努めている。年2回職員との個別面談で意見を聞くほか、出された意見は内容に応じて職員会の中で話し合い、利用者本位の支援ができるように検討している。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	利用開始時に相談窓口及び意見箱についての説明を行っている。面会時等や行事にて来所された時に意見や要望を聞き取るように取り組んでいる。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	法人代表者は定期的に来所し、職員の要望や提案を聞くように努めている				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員個別の気付きや意見を取り入れ、利用者本位の支援を実践できるように努めている				
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	外部評価の結果を職員全員周知し取り組んでいく予定				外部評価の自己評価は、全ての職員で取り組み、管理者が取りまとめて作成をしている。また、サービスの評価結果は、運営推進会議メンバーや家族に報告している。コロナ禍において、集合形式の会議を開催することができていないこともあり、目標達成状況の取り組み状況のモニターに協力してもらうまでには至っていない。感染状況の落ち着いた際には、集合形式の運営推進会議を開催して、サービス評価の取り組みの目的や意義を説明したり、家族や参加メンバーに目標達成へ向けた取り組み状況のモニターを呼びかけて協力してもらったりするなどの取り組みが行われることを期待したい。今後管理者は、「モニターの協力を呼びかけて、出された意見を反映させたい」と考えている。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	運営推進会議でも報告を行い、意見交換を行う予定				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議でも報告を行い、意見交換を行う予定	×	-	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	事業所内での取り組み成果は確認できていない				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	対応マニュアルは作成しており、職員会などで周知を行っている	/	/	/	年2回、利用者と一緒に避難訓練を実施している。事業所として、3日間の水や食料などの備蓄品を用意しているが、事業所の保管場所が狭いため、テントなどの大きな防災道具などは、法人内の他の施設等で保管してもらっている。コロナ禍において、家族の来訪する機会が少ないこともあり、利用者家族等アンケート結果から、災害への備えに対して、十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、家族や近隣住民、運営推進会議メンバーに避難訓練への参加協力を呼びかけたり、事業所便りに避難訓練の様子を掲載したり、事業所内に訓練の様子の写真を貼って周知するなど、家族等への安心安全な取り組みが理解してもらえるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画している。	△	訓練を行っているが、さまざまな時間帯の想定は行っていない	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防災訓練時に行う	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	防災訓練は行っているが地域や合同への参加は行っていない	×	-	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	参加できていない	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	行っていない	/	/	/	事業所として、相談件数は少ないものの、近隣住民から介護相談が寄せられるほか、電話で相談を受けることもあり、管理者等は快く対応をしている。また、経営移管前のコロナ禍以前には、マジックショーや地元の保育園児の訪問等ができていた。さらに、コロナ禍で会議等に参加する機会は少ないものの、市行政や地域包括支援センター等との連携を図ることができている。今後管理者は、感染状況が落ち着いた際に、歌のボランティアや保育園の来訪を再開したり、学生の実習の受け入れに協力したり、市行政や地域包括支援センターから要請があれば、協力していきたいと考えている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	入居者様ご家族の相談支援や地域の方の相談支援は行っている	/	-	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	行っていない	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	実習受け入れ等あれば積極的に受け入れる	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	行っていない	/	/	○	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5年 4月 14日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	0名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3890600392
事業所名	グループホームくれない
(ユニット名)	お福
記入者(管理者)	
氏名	渡部好恵
自己評価作成日	令和 5年 3月 20日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 笑顔の絶えない楽しい日々を送っていただく</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①利用者様の現在の状況を担当者から聞き出し職員会で情報共有し、計画の見直しが必要か話し合うよう取り組んだ。職員間で共通認識が出来るようになり、ケアの確認が行えている。 ②毎月のくれない便りに運営上の事柄や職員の入退職についてのお知らせを掲載するよう取り組んだ。くれない便りに掲載するようになり、ご家族からコメントをいただくなど以前よりは分かりやすくなったと認識している。 ③本人からの聞き取りや要望を聞くがコロナ禍の為外出支援にはつなげていない。感染状況を鑑みて可能な外出支援を行ってきたい。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 令和3年4月に、現在の法人に経営移管した事業所は、市内中心部から少し離れた住宅街に立地している。リビングや廊下の窓から、石鎚山の絶景や田畑が眺められ、季節を感じる事ができる。コロナ禍において、外出や面会の制限が設けられていたが、日頃から事業所周辺を散歩したり、裏にある畑に出て旬の野菜を収穫したり、玄関スペースで家族との面会に対応するなど、利用者が気分転換を図りながら、楽しみのある生活が送れるような支援に努めている。また、職員同士の良好な関係が築かれ、お互いに意見が言いやすいほか、有給休暇を取得しやすく、働きやすい環境にあると感じており、離職する職員はほとんどいない。管理者は、「事業所の素晴らしいところは、職員が良いこと、利用者をぞんざいに扱わず、常に寄り添って支援している。今後は、運営推進会議や避難訓練の開催方法のほか、家族や近隣住民との交流行事を実施するなど、職員間で話し合いをしながら、改善していきたい」と活き活きと話されていた。訪問調査日には、ユニットの入り口に設置されたボードに、事業所の理念である「笑顔の絶えない楽しい日々を送っていただく...マスクの下は笑顔です」と掲げられており、その具体的な取り組みを記載し、実現できよう職員一同が取り組んでいる。</p>
---	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日頃の支援や話をする中で利用者の希望や意向の把握に努めている	◎	/	○	日々の支援や会話の中から、職員は利用者の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。把握が困難な利用者には、表情やしぐさなどから思いをくみ取るよう努めている。また、面会時や電話連絡時を活用して、家族から情報を聞くほか、意向などを確認している。さらに、把握した情報は、申し送り時や職員会を活用して職員間の共有に努めているが、記録に残すまでには至っていない。今後は、センター方式の「私の姿と気持ちシート」などを活用して、利用者の暮らし方への思いなどを整理しながら、共有化しやすくするための記録が残るように、職員間で検討することを期待したい。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の何気ない言葉や行動にてこの人ならこう思っているだろうという視点で検討している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族からの聞き取りにて本人の思いなど聞くことが出来ている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	職員からの聞き取りの中での情報は日頃の記録や、職員会時の記録として残している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落としやすいように留意している。	○	話をしながら本人の思い等聞き流さないように日々の支援の中で留意している	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	家族さんと話をする中で本人の生活歴や今までの事など聞いている	/	/	◎	入居時に、フェイスシート等を活用して、職員は利用者や家族から、生活歴などの聞き取りをしている。以前利用していた介護サービス事業所等の関係者や介護支援専門員から、サービスの利用経緯や状況などの情報を聞くほか、病院の担当者からサマリーの提供を受けることもある。また、日々の会話の中から、職員は利用者から新たな情報を聞くこともあり、申し送りノートを活用して、職員間で共有をしている。さらに、介護計画の見直しに合わせて、フェイスシート等の情報も更新をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日頃の支援の中で利用者の有する力、出来る事等の把握と情報の共有は行っている	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	利用者一人一人の過ごし方、日々の変化の把握は行っている	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日頃の会話や職員会などで本人の視点で検討している	/	/	◎	事前に、職員は利用者や家族から意見を聞くほか、受診時に主治医から指示やアドバイスをもらっている。また、利用者毎の担当職員を決めているが、管理者は職員全員から利用者一人ひとりの情報を聞くようにしている。さらに、把握した情報をもとに、職員会の中で話し合い、利用者の現状を確認しながら、より良いサービスが提供できるように利用者の視点に立って検討をしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	検討した内容に基づき出来る支援を行っている	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いや意向が反映された内容に努めている	/	/	/	事前に、職員は利用者や家族、主治医から聞いた意見や指示のほか、アセスメント情報をもとに、職員会を活用して職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、家族から出された「筋力が落ちると歩けなくなるので運動はしてほしい、転倒を防止してほしい」などの意見を反映して、歩行器を使用した歩行訓練などのサービス内容を立案し、実践に繋げている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人、家族、職員などと話し合いながら意見等を反映し作成している	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の利用者に対しても慣れ親しんだ暮らし方、過ごし方が出来る内容としている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族の協力体制を盛り込んだ内容になっている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	職員会にて話し、日々の記録に添付しいつも目を通す事が出来る様になっている				利用者一人ひとりの個別ファイルをユニット内に置き、職員はいつでも介護計画の内容を確認できるようにしている。また、利用者別実施状況一覧表を活用して、介護計画に沿ってサービス内容が実践できたかを○×の印を付けて記録を残しているが、日付により記録の未記載が見られた。計画に沿ったサービス内容が実施できなかった場合には、×印を付けた上で、備考欄等のスペースに実施できなかった理由のほか、普段と違う表情や状況を記載するなど、記録様式や記録の統一が図られるように、職員間で検討することを期待したい。管理者は、「現在の実施状況一覧表は記載しにくい部分や、状況が分かりにくい部分がある」と考えており、記録様式の変更を検討している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	「実施状況一覧表」を使い状況確認行い、日々の支援に繋げている				△
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	大きい変化がなければ6ヶ月に1度介護計画の見直しを行っている				○
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月に一度は職員会にて現状確認行い、記録に残している				◎
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	心身状態に変化が生じた時は計画を見直し現状に即した計画を作成している				○
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度職員会を開催している。	○	定期的に月に一度の職員会にて会議行い、緊急性がある場合はその都度職員会にて話し合いを行っている				○
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員全員が話しやすい雰囲気づくりに努めている				◎
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	全ての職員が参加できる日程とし、参加できなかった職員へも記録を残し情報の共有が出来る様になっている				○
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	口頭、日々の日誌や申し送りノートを使い全ての職員に伝わる様になっている	○			◎
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その日したいことの把握と叶える努力、支援は行っている				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	簡単な事から自己決定する機会を作っている				◎
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人一人のペースに合わせた支援を行っている				◎
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	出来ないと言う方も出来るレクや笑顔が出る声掛け、支援を行っている				◎
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思疎通が困難な方も日頃の様子を観察しながら本人思いに気づきながら支援を行っている				◎
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしよう言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	プライバシーを大切にしよう言葉かけ、態度を常に意識し支援を行っている	◎	-		○
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄時や入浴時など戸やカーテンを使用しながら介助を行っている				◎
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	本人への居室に入る時はノック、声かけ行い入室し、本人が留守時に入る時は本人へ確認し入室している				◎
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	職員会にてプライバシーの保護、個人情報の漏洩防止について話し、理解、厳守している				◎

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	食事、洗濯、掃除等にて利用者に向けて頂きながら生活行い、互いに感謝し合う関係性を築いている	/	/	/	職員は、利用者の性格や関係性を把握し、見守りのほか、配席に考慮するなどの対応をしている。時には、言い合いなどのトラブルが発生する場合も見られ、早期に職員が間に入って、別の場所に移動してもらい、お互いの話を聞いたり、屋外に出て散歩をするなど、気分転換が図れるよう支援しながら、関係性の悪化防止に努めている。また、利用者が他の利用者のコップを取ってあげたり、車いすを押ししたり、「しんどそうだけど大丈夫」と体調を気遣う声かけをするなど、利用者同士の助け合いや支え合う場面も見られる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士がともに助け合い暮らしていくことの大切さは理解しており、皆さんが共に生活出来るよう支援行っている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	席順など工夫しながらトラブル回避を行っており、利用者の出来る力を発揮できるよう支援行っている	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者同士のトラブル等が生じたときはお互いの話を聞きながら、席を離す、どちらかの方と外に出る等気分転換行い、今後の問題解決に努めている	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人や家族よりなじみの場所、生家、学校等を聞き把握している	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	近所の方や馴染みの方との面会や花見や病院の行き来の時等外出時に本人の馴染みの場所の近くを通る等支援行っている	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナの影響にて家族と外出は控えているが、花見は日にちを変えながら全員の方が出かける事が出来た。妻の畑にて花を見たり、収穫時は重度の方も車いすが通れるように道を整備し少しでも楽しめるように支援行っている	○	-	○	日頃から、利用者は事業所の裏にある畑に出て、花の観賞をしたり、草引きをしたり、野菜を収穫するなど、楽しみながら気分転換を図ることができている。車いすの利用者も、畑へ行きやすいように通路が整備され、一緒に野菜の収穫などを楽しむことができている。また、事業所周辺を散歩したり、玄関前の幅広いなだらかなスロープを利用して、外気浴を兼ねて、シャボン玉や水風船のレクリエーションをするなどの支援もしている。今年の春には、利用者全員で桜の花見に出かけることができ、利用者の喜ぶ姿を見ることができた。今後管理者は、「買い物などの外出行事を増やしたい、玉ねぎやじゃがいもの収穫などを利用者と一緒にやりたい」と考えている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナの影響にて家族や地域の方との外出は控えている。病院受診等にて家族と出かける方はいます	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	施設内研修にて認知症についての研修をしながらその人に適した支援が出来る様に話し合い行っている	/	/	/	日々の支援の中で、職員は利用者一人ひとりのできることやできそうなことを把握に努め、申し送りノートやフェイスシートを活用して、職員間で情報を共有している。入浴時には、湯を入れた洗面器を手渡して、利用者自身に洗身などのできることをしてもらい、職員は手の届かない部位の洗身やできないことサポートをしている。また、口腔体操やラジオ体操、廊下の歩行訓練、散歩などを取り入れ、利用者一人ひとりに合わせた心身機能の維持が図れるよう努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	出来ない事が増えていく中で本人が出来る事の維持が出来る支援を行えるよう取り組んでいる	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	残された能力を維持出来る様に見守りながら出来ない時は手助け行い、今後も本人が少しでも意欲的に出来る様に支援行っている	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人の楽しみ、役割、出番等は把握しており発揮出来る様支援行っている	/	/	/	洗濯物たたみや廊下のモップかけ、調理の下ごしらえ、テーブル拭き、お盆拭き、畑の手入れなど、職員は利用者の得意なことやできることを見つけて、役割や出番を担ってもらよう支援している。また、職員は編み物やパズル、カラオケなど、一人ひとりの好きなことを把握しながら、利用者が楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	草引きが好きな方と畑にて草を引く、テーブル拭き、洗濯たたみが出来る方は率先して頂く、パズルが出来る方、歌やことわざのレクなら参加される方など一人一人に合った取り組みは行っている	○	-	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している				外出時に、自分でおしゃれな衣服を選び、鏡の前で、化粧をするなどの身だしなみを整える利用者もいる。職員は髪を編み込んでもらったり、電気シェイバーを手渡すと自分で髭を剃ったりする利用者があるなど、職員は利用者一人ひとりの個性や希望などに応じた支援をしている。また、食事の際に、衣服が汚れないように、自ら自分用のエプロンから自室に取りに行き、着用する利用者もいる。さらに、衣服の乱れや汚れなどが見られた場合には、職員がさりげなくフォローをしたり、居室へ移動して着替えてもらうなどの対応をしている。加えて、重度な状態の利用者にも、家族に好みの服を持って来てもらったり、自分の好きな髪型を伝えて、訪問理美容に散髪してもらったりするなど、本人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	本人の好みや希望のスタイルで過ごせるよう支援している				
		c	自己決定がにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	職員が援助しながらその人の好み季節に合った服装で過ごしている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時など季節やその人らしい服装を楽しめる様支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	ご自分で出来る方はさりげなくアドバイスを行い、出来ない方へもさりげなく汚れを取る等支援している	○	-	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	コロナの影響もあり、施設内にて理容して頂いているが、本人に希望を聞きながらカットして頂いている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度な状態の方でも本人らしさが保てる工夫は行っている			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事に関する意味や大切さは理解し提供している				事業所では、配食サービスを利用しており、業者から調理された食材が配達され、ユニット内で炊飯と汁物を作るとともに、利用者一人ひとりの状態にあった量や食の形態にして、盛り付けて利用者に提供をしている。週1回、数種類のメニューの中から選択できる日が設けられ、利用者と相談しながら決めたちらし寿司や麺類などを楽しみに食べている。また、月2回程度、利用者のリクエストメニューを取り入れており、直近で、利用者と一緒に好み焼き作りをした際には、具材選びやキャベツ切り、具材混ぜなどを手伝ってもらいながら、美味しいいただいている。入居時に、アレルギーの有無や苦手な食材などを把握し、苦手な食材などがある場合には、事前に業者に伝えて代替品の用意をもらうこともできるが、現在は対象の利用者がいない。さらに、事業所の畑で収穫した旬の玉ねぎやじゃがいも、さつまいも、ピワなどの食材をおやつや調理をして提供するほか、昔懐かしいはったい粉のお菓子なども取り入れ、食事などが楽しみになるよう工夫をしている。食器類は、自宅から使い慣れた物を持参してもらっていたが、湯飲み以外は事業所の使いやすい食器を使用している。食事の際に、感染症の予防のため、職員は利用者と一緒に食事を摂っていないが、必要に応じて、見守りやサポートをするとともに、談笑をしながら、食事が楽しくなるような支援に努めている。重度の利用者も一緒に、日中にはリビングで過ごしており、オープンキッチンから調理の匂いや音が聞こえるほか、職員は食事前にメニューを伝えるなど、食事が待ち遠しくなるような雰囲気づくりをしている。加えて、業者の栄養士が立てた配食サービスの献立は、エネルギーや蛋白質などの栄養バランスが取れているほか、管理者等は、気になることを業者に伝えることもできる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	買い物、献立、食材選びはスタッフがやっているが、テーブル拭きや後片づけは利用者と共にやっている			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	スタッフが行う事が多いが、食前の準備、後片づけ等は利用者さんをお願いしており、下膳して頂いている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	利用者の好きな物、嫌いな物、アレルギーの有無は家族や本人からの聞き取りにて把握している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのものを取り入れている。	○	配食サービスを使用しており献立作りは行っていないが、おやつなどは季節の果物、季節感のある物、季節の野菜を使った味噌汁など出来る限り取り入れている。家族より聞いている本人の好きな物等を食べる事もある			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	食材が大きいと吐き出す人や嚥下が悪く喉に詰めやすい人など刻みやミキサー食必要な方もおり、一人一人にあわした形態での提供を行い、本人が食べやすい、食器での提供を行っている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	箸は本人用を用意しており、食器等も使いやすいものになっている			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	感染予防の為に一緒に食事は行っていないが、誤嚥のしやすい方には横に付き支援しながら、喉のつまりがないように、楽しい食事になる様に支援している			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	利用者の近くにて調理の音や臭いを伝えながら、調理している。食事をした事を忘れる方も多くご飯ですと伝えながら調理している			◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	ご飯の量が多いと残す方へはご飯の量は少なめとし、副食を多めに提供するなど、利用者一人ひとりに合した、食べられる量やバランスを見ながら提供している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	主食を残す方にはふりかけをかけるなど本人が好む工夫し、お茶を嫌がる方へは食事前に飲んで頂き一日に必要な水分量と食事量の摂取、低栄養にならないよう心がけている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	配食サービスを使用しているが、種類、お寿司等利用者が好む献立もあり、時折食事レクレーションにて利用者が喜ぶメニューなどスタッフ間にて話し合い献立決めている			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理前の手洗い、消毒、洗浄後の食器は乾燥機で乾かすなど衛生管理に努めている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性は理解しており、毎食後口腔ケアを行っている	/	/	/	事業所では、年1回訪問による歯科健診を行い、利用者の口腔内の健康状況を確認してもらうことができています。毎食後に、職員は利用者の口腔内の様子を確認し、異常が見られた場合には、早期の治療に繋げている。また、職員は利用者へ声をかけて、食後にリビングにある洗面台に移動してもらい、歯磨きなどの口腔ケアを実施するとともに、見守りや磨き残しなどのサポートをしている。さらに、義歯のある利用者には、夕食後に預かり、洗浄剤に浸けるなどの清潔保持にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	歯科医師の訪問にて利用者の状態の報告や毎日のケアにて把握している	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医師の訪問にて利用者の状態の報告、口腔ケアの方法や気を付ける事など聞き日頃の支援に生かしている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	本人が出来る人は声掛け、見守り、磨き直しが必要な方は声掛けながら介助している	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	本人が出来る所までして頂き、磨き直しが必要な方は声掛けながら介助している。歯磨き粉を口に入れる、コップに移してしまう、他の人の歯ブラシを使う人等居る為、スタッフが横に付きながら支援を行っている	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄に自立、トイレにての排泄の大切さは理解しており重度の方も介助しながら支援を行っている	/	/	/	事業所では、トイレで排泄することを基本的に支援しており、立位が難しい利用者にも、日中に職員が2人体制で、安心安全なトイレ誘導や排泄介助をしている。また、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的な状態に合わせて、職員は声かけやトイレ誘導を行い、可能な限り、布パンツを使用して生活が送れるような支援に努めている。さらに、利用者の状態に合わせて、パッドや紙パンツ、紙おむつの適切な排泄用品の使用を職員間で話し合うとともに、利用者や家族と相談しながら、適切な用品を選択して使用できるよう支援している。加えて、利用者の状態に応じて、体操や腹部マッサージ、水分摂取を促し、便秘予防にも努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘が体へ及ぼす影響は理解しており、排泄表を利用しながら快便に努めている	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄表を利用しながら排泄パターンを把握している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	トイレでの排泄を基本とし自分で立位が出来ない方も二人介助にて座り排泄するなどトイレに座る事大切さは理解しており支援を行っている	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	時間で誘導や声掛け行いながら改善出来る所は改善している	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	本人の好みや希望のスタイルで過ごせるよう支援している排泄パターンに合し誘導している	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人へ聞きながら本人が嫌がらないものを使用し、家族へも聞き、話し合いながら紙パンツ、パッドを使用している	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	利用者の状態に合した下着を使っている。紙パンツを使うことが当たり前と考えず、尿もれパッドを使用しながら本人が希望する布パンツを使用する等の支援を行っている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	便秘になりやすい方は多く、緩下剤を使用している方が多いが、便の出やすい飲み物、食べ物の提供を行っている	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	曜日など決めてはいるが、順番、湯舟へ入っている長さなど利用者の希望を聞きながら支援を行っている	◎	/	○	週2回、午前中の時間帯を基本として、利用者は入浴することができる。利用者の希望に応じて、午後の時間帯のほか、遅い夕方の時間帯の入浴にも対応をすることもある。また、湯の温度や湯船に浸かる時間など、利用者の健康状態に応じて、柔軟に対応をしている。入浴の順番は、利用者同士の関係性を考慮して、利用者が少しでも入浴を楽しめるよう支援をしている。さらに、入浴を拒む利用者には、無理強いすることなく、声をかける職員を交代したり、言葉のかけ方を工夫したりするなど、入浴の成功例を職員で共有して試しながら、気持ち良く入浴してもらうこともできている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	気温や長さなどくつろいだ気分で入浴できる様に支援を行っている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人が出来る所は洗って頂き、着替えなども見守り、介助の支援を行っている	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴したいと思える様声掛けや、異性への拒否がある方へは同性スタッフが介助するなどその方が気持ちよく入浴できる様に工夫を行っている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には「バイタル確認を行い、状態が不安定な方へは入浴後の確認も行い日頃の様子との変化がないか確認を行っている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	早く寝ると何度も起きる方もおり一人一人の睡眠パターンは把握し、就寝を促している	/	/	/	申し送り時などを活用して、夜眠れない利用者の情報共有や原因を探るとともに、日中の過ごし方や支援内容を工夫したり、外気浴を取り入れたりと、職員は利用者が夜間に安眠できるよう支援している。また、不眠が続く場合には、利用者の体調面を考えて医師に相談し、服薬に繋がることもある。さらに、夜眠れずに、ふらつきや転倒の恐れがある場合は、センサーを設置したり、床にマットレスを敷き詰めたりするなど、起床時の転倒による事故防止にも努めている。中には、日中の活動などを見直すことにより、服薬を止めることのできた利用者もいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転気味の方がいれば昼間に少しでも体を動かす事を行い、昼間は起き、夜間は寝るよう生活リズムを整える工夫は行っている	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	どうしても夜間寝ない方もおり医師と相談しながら眠剤等使用しながら夜間寝るように支援している	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人の状態を見ながら休息、お昼寝の時間を設けている。少しの時間ならクライニングチェアを使い横になるなどし体を休めて頂いている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人の希望があれば電話やメール、動画、画像を送るなどの支援行っている	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	手紙は難しい方は動画を撮り家族へ送るなどしている	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があればその都度対応している	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙等は本人へ渡しているが、それを見て不穏になる方もおり事務所にて預かり保管している方もいる	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族から手紙や写真など頂く事もあり本人へ渡し家族との繋がりを大切にしている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	ほぼ全員の方が自己管理は難しい為、家族より預かり管理している	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナウイルスの影響もあり外出し買い物などの支援は出来ていない	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	金銭関係にて不穏になる方も多く、自己管理が難しいが本人の希望があれば家族と相談し対応できる様に努めている	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	自己管理は難しい為、預かっているが、使用時は家族へ相談している	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	管理方法については家族へ説明し定期的に預かり金台帳を送付し確認して頂いている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	定期受診時の送迎、付き添いや家族の希望に沿いながら面会を行うなどその都度柔軟な支援を行っている	◎	/	◎	事業所として、病院の受診時の送迎や付き添いのほか、専門医の受診時に、職員が同行して、利用者の様子を伝えるなどの対応をしている。また、利用者の要望に応じて、こだわりの化粧品や歯磨き粉、お菓子などの買い物を代行するなど、柔軟な支援に取り組んでいる。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	コロナウイルスの影響により出入りを制限しているが、希望があれば面会は行っており来所しやすい雰囲気づくりは行っている	◎	-	○	事業所の前には、駐車場のほか、庭木が植えられた花壇が設置されている。敷地内に入ると幅広いなだらかなスロープの設置があり、車いすの利用者も出入りがしやすくなっている。また、玄関前には白いすが置かれ、家族等との会話の場に活用されている。さらに、玄関ホールには人形などの置物や花が飾られて、親しみやすい雰囲気が感じられる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない寂風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていない等。)	○	利用者さんの作品や、利用者さんが取りやすい所へ本やかるたを置いており家庭的な雰囲気を保てるよう工夫している	◎	-	○	リビングには広いテーブルが設置されているほか、畳スペースも設けられ、日中に思い思いの場所での昼寝をする利用者もいる。また、広いリビングの窓から入る日差しは明るく、風通しが良いほか、毎朝職員と利用者が一緒に清掃していることもあり、快適な空間となっている。中には、廊下をモップで拭いてくれる利用者もいる。物がたくさん置いてあると不穩になる利用者があるため、共用空間の整理整頓を心がけている。さらに、リビングの壁に紙で作った桜やチューリップを利用者と一緒飾り付けをしたり、畑で花を觀賞したり、旬の野菜や果物を収穫するなど、季節を感じながら、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日の換気、掃除を行っており、リビングへ空気清浄機や加湿器など設置している	/	/	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	昼間はカーテンを開けており、天気、花、石嵐山、田んぼの様子等季節を感じる様になっており、声掛けしながら外をよく見て頂いている	/	/	◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う方と話せるよう席の配置や、居室にて過ごせるよう利用者が希望するところで過ごせれるよう工夫している	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅に使っていた物や衣服など、馴染みのある物を持参して頂き本人が居心地のいい空間作りの工夫を行っている	◎	/	◎	居室には、介護用ベッドやチェスト、エアコンなどが設置されている。職員は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具を配置するほか、仏壇や家族の写真、ぬいぐるみ、カレンダーなどを飾り、居心地良く過ごせるよう支援している。中には、フロアモップ等を置き、自分で居室を掃除している利用者もいる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室の扉へ名前を書いた札を置き、自分で自室がわかる様にしており、トイレの絵などで場所がわかる様に工夫している	/	/	○	居室の入り口には、縦書きで氏名を表記するほか、利用者の写真や好きな色紙のバラを飾り、認識しやすいようにしている。また、トイレには、分かりやすく大きくトイレと書いた紙のほか、数種類のトイレのマークを掲示するなど、利用者が迷わずに、自立した生活が送れるよう配慮している。さらに、利用者が手の届くところに新聞や本、雑誌が置かれ、毎日新聞を読んでいる利用者もいる。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	物がある事により不穩になる方も多いため、常にリビングに置くことは出来ない物もあるが、新聞、広告、雑誌を勧め個々で読む、ふきんを渡すとテーブルを拭いて下さる、洗濯物を見ると干す、置むなど生活の中で活動意欲が出る様に工夫している	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけることも済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	カギをかける事の弊害は理解しており、カギをかけていない	◎	-	○	身体拘束の防止などを内部研修で学び、職員は鍵をかけることの弊害を理解している。職員は、「グループホームは家、家は鍵をかけて閉じ込めることはしない。鍵をかけることで心理的に不安になるので日中に玄関の施錠はしない」という共通認識を持ち、利用者の自由な暮らしを支援している。また、日頃から、利用者は事業所周辺の散歩をしたり、天気の良い日は畑に出て草引きや野菜の収穫をしたりするなど、頻りに屋外へ出て、閉塞感なく過ごすことができている。さらに、外出願望のある利用者には、職員が話しを聞いたり、一緒に外を歩いたりして対応している。夜間は防犯のために、玄関の施錠をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族と話し合い理解を図っており、日中は可能な限りカギをかけないようにしている	/	/	/	
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個別ファイルにて把握しており常に見れる所へ置いている	/	/	/	/
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	身体状態の変化、異常の早期発見に努めており、対応、報告など記録に残している	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になる事が有れば主治医へ電話や往診対応をお願いしている	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	家族へ聞きながら受療状況は把握しており、本人、家族が希望している医療機関へ受診出来る様に支援を行っている	◎	/	/	/
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人及び、家族の意向に沿って適切な医療が受けられるよう医療との連携を取り支援を行っている	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診の結果報告はご家族へ伝え、情報共有を行っている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	その都度情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中は病院の相談員と連絡を取り情報交換を行っている。退院に向けての支援も家族の意向を聞きながら連携して行っている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日々の受診の際に同行し、本人の状態等医師へ伝え相談を行っている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	その都度、報告や相談を行っており病状安定を図っている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	連絡可能な体制作りが出来ており、早期発見、病院受診に繋げている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	個人ファイルを作成し服薬管理行っている。本人の経過や変化など情報収集し情報提供行っている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬管理行い、飲み忘れや誤薬がないように、スタッフ同士にて声掛け、確認行っている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日頃の健康観察等にて確認し変化があれば医師や看護師に相談している				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に話し、状態が悪化した時に再度家族と話し合いを行い、その意向を確認し、医師、看護師と連携しながら対応方針を共有している				事業所には、「重度化した場合における(看取り)指針」があり、入居時に、家族等に説明を行い、同意を得ている。また、利用者の体調が悪くなった場合には、再度家族の意向を確認するとともに、医師や看護師、職員を交えて話し合い、方針を共有している。事業所の経営移管後に、2名の看取り介護を経験している。職員の聞き取りの際に、「夜間の急変時には、管理者の協力や24時間体制での訪問看護との連携が取れていることや、事前に看取りの流れやそれに伴う必要な介護などの内部研修を実施し、落ち着いて対応することができ、今後も事業所での看取りを希望する利用者には対応したい」と話されていた。加えて、看取り介護の最後まで、管理者は口腔内の清潔保持に努めるとともに、利用者の好きな果汁をガーゼに浸して口腔内を潤すなど、利用者に寄り添った支援を大切に考えている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化、終末期の在り方については、本人、家族、職員、主治医、看護師等と話し合いながら方針を共有している	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員とこまめに話し合い、支援の方針を共有している				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	事業所の出来ること、出来ない事はその都度説明を行っている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	主治医や訪問看護と連携しながらチームとして支援していく体制を備えている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の意向の確認を行いながら寄り添えるよう支援している				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的に研修を行っている				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルがあり、職員が手に取れるようにしている				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	テレビやインターネットで最新情報を入手し対応している				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	情報収集を行い、マスク着用、消毒、手洗いの徹底と面会の制限を行っている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時や日々の連絡にて現状を伝え本人の為に協力して頂いている	/	/	/	コロナ禍において、経営移管が行われたために、面会制限もあり、今までに家族が参加できる行事の開催はできていない。コロナ禍の落ち着きもあり、法人・事業所として、面会制限が緩和され、現在は玄関ホールで利用者と家族の面会ができるようになってきている。また、今年7月には、事業所として夏祭りを開催を予定しており、家族や運営推進会議メンバーなどの参加協力の呼びかけも検討している。さらに、毎月、利用者の写真のほか、職員の入退職や異動、居室のベッドを全て介護用ベッドへ交換したことなどの運営上の事柄を事業所便りに掲載して家族に送付するほか、LINEを活用して写真を送付するなど、利用者の近況等を伝えるほか、家族の来訪時に管理者は、利用者の気がかりなことや近況を伝えるほか、気軽に相談ができるように、玄関前のいすに座り、ゆっくりと話を聞くように心がけている。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	コロナウイルスの影響の為行えていない	○	/	△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	現状はコロナウイルスの影響の為面会を制限しているが、面会時や電話連絡にて家族が感じている不安等を把握し、毎月の便りにて日常の様子を伝え、動画や画像を送り本人の今の様子を伝えている	◎	/	○		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人と家族との関係を理解しより良い関係が継続出来る様、お互いに連絡行い支援行っている	/	/	/		/
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	便りの中で報告や面会時や電話にて対応している	/	×	/		○
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所時にリスクについての説明をし、理解していただいている	/	/	/		/
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	来訪時にはご家族と話す機会を多く持つようしており、意見等が気軽に言える信頼関係づくりをお心がけている	/	/	/		○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時にはご家族、本人に説明を行っている	/	/	/		
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居される際はご家族の希望に沿う形で退居となっている	/	/	/		
<b>III. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、事業所の説明や問題点、認知症への理解を深めていく予定であるが現在は文書開催となっている	/	/	-	コロナ禍において、外出や面会の制限が設けられ、近隣住民との交流できる機会は少ないものの、事業所周辺の散歩時に、挨拶や会話を交わすこともある。また、昨年の秋祭りの際に、事業所にだんじりの来訪があり、利用者の喜ぶ顔を見ることができた。さらに、地域の理容室から訪問理容に来てもらうなど、地域の社会資源を活用している。今後は感染状況を見計らいながら、予定をしている夏祭り開催時に、近隣住民へ参加を呼びかけて交流を図ったり、地域行事に利用者と一緒に参加したりするなど、少しずつ地域との関わりが広がられるように取り組みが行われることを期待したい。加えて、地域住民にアンケートを持参して、協力を呼びかけたものの、コロナ禍でアンケートに応えることができない旨を言われ、アンケートの提出には至っていない。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	日常的な挨拶や散歩の際の挨拶は行っているが、コロナウイルスの影響の為地域行事には参加できていない	/	/	-		△
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	コロナウイルスの影響の為交流できていない	/	/	/		/
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナウイルスの影響の為交流できていない	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	コロナウイルスの影響の為交流できていない	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナウイルスの影響の為行えていない	/	/	/		/
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	訪問理美容を使用したり、隣接する他事業所との協力体制はできているが、外部に関して、あまり積極的な働きかけはできていない	/	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	コロナウイルスの影響の為文書開催となっている	△	/	△	運営推進会議は、利用者や家族、地域に住む元職員、法人内の他の事業所の管理者などの参加を得て開催をしている。コロナ禍において、事前に会議の参加メンバーや家族から、電話などで意見を出してもらい、職員間で話し合い、管理者が作成した資料配布の書面開催となっている。また、会議のメンバーや全ての家族に、外部評価の自己評価やサービスの評価結果などを報告している。管理者は、夏祭りや避難訓練などの行事に合わせて、運営推進会議を開催することを計画し、少しでも多くの家族や近隣住民の参加協力を検討しているほか、運営推進会議等開催報告書の様式の変更を考えている。今後は、自治会長や民生委員などに会議の参加協力を呼びかけたり、会議録を玄関スペースなどに置き、来訪者等がいつでも閲覧できるようにしたりするなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	△	結果報告は行っているが議事録の公表はしていない	/	-	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	コロナウイルスの影響の為文書開催となっている	/	-	/	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員の話し合いの中で事業所理念をつくり、日々の実践が理念に基づいたものになるよう取り組んでいる。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	より理解を深めるために働きかけが必要である。地域の人たちには伝えられていない	○	-	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員のケアの実勢と力量及び本人の希望等を踏まえ、計画的に法人内外の研修参加を行っている	/	/	/	月1回程度、事業所に代表者の来訪があり、職員や利用者へ声をかけてくれるほか、畑の草引きやぶどうの木の手入れなどの対応をしてくれることもある。また、内部研修を実施するほか、法人内外の外部研修を取り入れながら、職員のスキルアップに努めている。年1回、全ての職員を対象に、ストレスチェックを実施している。さらに、職員同士の関係性も良好で、意見も言いやすいほか、有給休暇の取得をしやすくするなど、職員は楽しく働きやすい職場環境と感じていることもあり、経営移管後にも、ほとんど離職する職員はいない。管理者は、全ての職員が有給休暇を取得できることを大切に考え、急な休暇希望にも快く対応するとともに、職員の出勤日には、元気に楽しく働けるような環境づくりにも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	管理者は、実務での気付きや必要な知識についてその場でアドバイスを行っている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	法人の処遇改善計画に基づき職場環境・雇用条件の整備に努めている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	コロナウイルスの影響もあり、参加出来ていない	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員に声掛けを行い、困っていることはないか尋ねており、ストレスチェックを行っている	○	-	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	法人の内部学習会で定期的に学ぶ機会をもち、具体的な内容の理解に努めている	/	/	○	定期的に、身体拘束や虐待の防止などの内部研修を実施し、職員の理解促進に努めている。日頃から、管理者は職員と一緒に日々のケアを振り返り、対応方法などの話し合いをしている。また、不適切なケアを発見した場合には、職員同士でその場で注意し合うとともに、管理者に報告して、内容に応じて職員会で情報共有を行い、注意喚起や再発防止に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々のケアについて職員ごとに確認を行っている	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	不適切なケア及び発見時の対処、通報義務について周知しており、日常的な話し合いを行っている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	個々の理解に差があり、意識の統一が必要である	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	職員会や日々の申し送りで話し合いを行っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	家族からの要望があれば説明を行い理解していただいている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	学ぶ機会はもっているが、職員の理解にはバラつきがある				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	対象となる方がいれば行う				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成しており周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	緊急時の対応について日頃より話し合っている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	事故報告書を職員会で共有確認し、話し合う機会を設けている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	職員会では個々の現状を確認してリスクや事故防止の為の話し合いを行っている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルがあるが理解にはバラつきがある				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	苦情の例がない				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	苦情の例がない				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	利用者には、普段の日常会話から意見や要望を聞き取るように取り組んでいるが家族に対しては個々に話を聞くことのみ行っている	◎		○	日々の会話の中で、職員は利用者から「お好み焼きが食べたい」などの希望や意見が出され、利用者と一緒に作って食べるなど、可能な範囲で対応をしている。面会時や電話連絡時を活用して、家族から意見や要望を聞くよう努めており、意見を伝えてくれることも多い。玄関には提案箱も設置されているが、コロナ禍で家族等の来訪する機会が少なかったこともあり、ほとんど意見は投函されない状況となっている。さらに、管理者は、職員とのコミュニケーションを図ることを心がけ、相談しやすい環境づくりに努めている。年2回職員との個別面談で意見を聞くほか、出された意見は内容に応じて職員会の中で話し合い、利用者本位の支援ができるように検討している。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	利用開始時に相談窓口及び意見箱についての説明を行っている。面会時等や行事にて来所された時に意見や要望を聞き取るように取り組んでいる。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	法人代表者は定期的に来所し、職員の要望や提案を聞くように努めている				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員個別の気付きや意見を取り入れ、利用者本位の支援を実践できるように努めている				
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	外部評価の結果を職員全員周知し取り組んでいく予定				外部評価の自己評価は、全ての職員で取り組み、管理者が取りまとめて作成をしている。また、サービスの評価結果は、運営推進会議メンバーや家族に報告している。コロナ禍において、集合形式の会議を開催することができていないこともあり、目標達成状況の取り組み状況のモニターに協力してもらうまでには至っていない。感染状況の落ち着いた際には、集合形式の運営推進会議を開催して、サービス評価の取り組みの目的や意義を説明したり、家族や参加メンバーに目標達成へ向けた取り組み状況のモニターを呼びかけて協力してもらったりするなどの取り組みが行われることを期待したい。今後管理者は、「モニターの協力を呼びかけて、出された意見を反映させたい」と考えている。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	運営推進会議でも報告を行い、意見交換を行う予定				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議でも報告を行い、意見交換を行う予定	×	-	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	事業所内での取り組み成果は確認できていない				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	対応マニュアルは作成しており、職員会などで周知を行っている	/	/	/	年2回、利用者と一緒に避難訓練を実施している。事業所として、3日間の水や食料などの備蓄品を用意しているが、事業所の保管場所が狭いため、テントなどの大きな防災道具などは、法人内の他の施設等で保管してもらっている。コロナ禍において、家族の来訪する機会が少ないこともあり、利用者家族等アンケート結果から、災害への備えに対して、十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、家族や近隣住民、運営推進会議メンバーに避難訓練への参加協力を呼びかけたり、事業所便りに避難訓練の様子を掲載したり、事業所内に訓練の様子の写真を貼って周知するなど、家族等への安心安全な取り組みが理解してもらえるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画している。	△	訓練を行っているが、さまざまな時間帯の想定は行っていない	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防災訓練時に行う	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	防災訓練は行っているが地域や合同への参加は行っていない	×	-	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	参加できていない	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	行っていない	/	/	/	事業所として、相談件数は少ないものの、近隣住民から介護相談が寄せられるほか、電話で相談を受けることもあり、管理者等は快く対応をしている。また、経営移管前のコロナ禍以前には、マジックショーや地元の保育園児の訪問等ができていた。さらに、コロナ禍で会議等に参加する機会は少ないものの、市行政や地域包括支援センター等との連携を図ることができている。今後管理者は、感染状況が落ち着いた際に、歌のボランティアや保育園の来訪を再開したり、学生の実習の受け入れに協力したり、市行政や地域包括支援センターから要請があれば、協力していきたいと考えている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	入居者様ご家族の相談支援や地域の方の相談支援は行っている	/	-	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	行っていない	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	実習受け入れ等あれば積極的に受け入れる	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	行っていない	/	/	○	